回覧
冬号
コミセン湘南 瓦版
令和3年12月1日発行
湘南地区まちづくり協議会
コミセン部会
茅ヶ崎市中島1670
TEL0467(57)5655

碁友会

おつかれさま

"知恵比べ" でなお元気

碁友会最後のメンバー。左から吉田、吉川、山中、荒武さん

コミュニティセンター湘南で 14 年半続けてきた『碁友会』が休会を決めた。10 月 5 日、荒武保朗、山中実、吉川幸雄、吉田愼さんの 4 人が和室に集まり、最後の碁を打ち思い出を語った。

コミセン湘南で 14 年半

碁友会の旗揚げは平成 19 年 3 月。中島、柳島を中心に湘南地区の 20 人が参加し、ほとんどが碁の好きな定年退職組だった。荒武さんは碁の魅力を知恵比べと言う。「相手に負けると悔しい。家に帰って猛反省、勉強。次回の作戦をじっくり練る。これです」

毎週火曜日午後、コミセンで約 3 時間。黒と白が交互に碁を置き、自分の石で囲んだ広さを競う。やってきたことは今も昔も変わらないのに、最後の碁友会メンバーは 4 人、平均年齢は 86 歳だった。

会員減にコロナも影響

「みんな年を取っちゃって、だんだんいなくなった」と淡々と語る吉川さんは、「コロナも足かせになったかな」と付け加えた。3 密回避、不要不急の外出禁止―コロナ禍でのスローガンが定着。コミセンも昨年、4 カ月間休館になった。ゆっくり碁を打てる環境ではなかった。

子どもに囲碁指導

自宅で研究を続ける荒武さん

碁友会の思い出のひとつに「子どもコミセンまつり」がある。平成 14 年から同 23 年にかけ「ゆとり教育」がさけばれ、小学生の間でも囲碁や将棋がブームになった。コミセンまつり会場内に囲碁・将棋コーナーができ、順番を待つ子どもの列ができた。碁友会でも、囲碁の手ほどきをしながら、孫のような子どもたちとふれあうことが楽しみだった。

ところが昨年と今年、コミセンまつりは中止。「2 年連続だからね、寂しかった」と吉川さん。コロナは子どもだけでなく大人の喜びも奪った。

「子どもコミセンまつり」の囲碁・将棋コーナーで大活躍の碁友会

休会後も再戦に意欲

碁友会が休会になった後の荒武さんは、毎朝の散歩を欠かさない。自宅で独り碁盤に向かう。「機会があれば、また集まりたいね」。コミセン湘南の碁友会の登録は取り消していない。

★トピックスは裏面

コミセン湘南トピックス

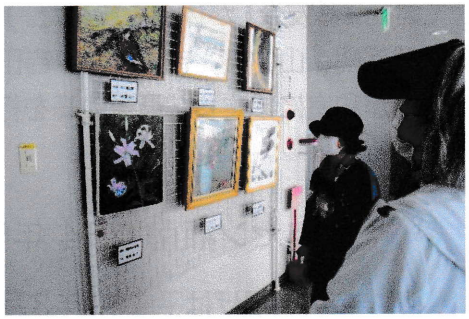
「湘南地区まちぢから協議会」ホームページからコミュニティセンター湘南の情報が見られます。「コミセン部会」から、もしくはQRコードを読み込みしてください。

湘南ベルブリッジは新名所

【9月4～30 日　湘南ベルブリッジ写真展】まちづくりスポット茅ヶ崎主催「ぶらり橋めぐり」の一環として、コミセン湘南１階ロビーで開催。新湘南バイパス茅ヶ崎ＩＣ付近、小出川にまたがる湘南ベルブリッジをテーマにした柳島ＣＳフォトクラブ４人の 11 作品が並んだ。ライトアップされた橋、富士山をバックにした橋、黄金色に輝く橋などの写真を見ながら、同クラブの山口代表は「アングル、撮影時間などを変えると、同じ橋がそれぞれ別の顔になるんです」と解説。タウンニュースに載ったこともあって多くの人が来館、９月 18 日終了予定が９月末まで延びた。

コミセンにはギャラリーもあります

【9月 29 日　絵画ギャラリー】コミセン湘南１階には年間を通じて柳島ＣＳフォトクラブの写真があり、２階ロビーでは絵画を見ることができる。８年前、柳島・ぼんぼりの会の山口さんが中心になって自分たちが描いた絵を展示。コミセンの「来館者の心が豊かになるような雰囲気にしたい」という要望に応えたもの。29 日には柳島の女性２人が自作を携えて来館。安丸さんの「鹿の子百合」は自宅の庭に咲いた花を１カ月かけて描いた力作。ちなみに、こちらの山口さんと柳島ＣＳフォトクラブの山口さんは兄弟。２人でコミセン湘南のイメージアップに貢献してくれている。



手をかけて焼くからうまい！

【9月 29 日　楽しい手ごねパン作りの会】コロナ禍で参加者を募っての「大人のパン教室」が開けない現状で、パン作りの灯を消さないためのサークル活動を続けている。どんなパンが喜ばれるか、先生役・根岸さんは毎回悩む。今回のチーズセサミロールは形もユニークで、コミセン湘南女子事務員の試食アンケートで支持を得た。ごまを生地に練り込み，まわりにパルメザンチーズをつけて焼く。ごまは、見た目の上品さなら白、味では黒とか。また、パン作り工程の発酵時間に根岸さんがオレンジピールマフィンを焼き上げ、４人の生徒のお土産にした。

フラワーアレンジメントで潤いを

【10 月 19 日　華の会】フラワーアレンジメントは〝西洋の生け花〟とも呼ばれ、日本の生け花は剣山を使用するが、こちらは吸水スポンジに花を挿す。コミセン湘南では昨年 12 月から活動を始めた。青木先生によると「基本を大事にしながら冒険もする」ことが求められ、色合い、高さ、花の向き、空間を考えながらアレンジする。現在の会員５人は 10 年から 20 年のキャリアを持つ。テレビのワイドショーのバック、結婚式場のメインテーブルにも飾られ、自宅では床の間より玄関がにあう。花を見た人を笑顔にさせ、生活に潤いを与えてくれそうだ。

「あぶ凧」でコロナ厄払い

【11 月3日　凧（たこ）展示】毎年この時期にコミセン湘南の階段踊り場に飾られる凧。今年は大・中・小の「あぶ凧」６枚が並んだ。制作者は創作コマでも知られる永野さん（**写真㊦**）で、きわめて少ない資料から「発祥の地は伊勢原。病気の媒体と考えられたアブをデザイン化し、魔除けの色とされる赤を彩色。病気が軽くすむようにとの願いを込め空へ揚げた」と推察。縦 35 センチ、横 90 センチの大型３枚のサイズが決まらず苦労したそうだ。湘南地区では「とんび凧」とも呼ばれる珍しい凧。必見です。

［あとがき］ 絵画と写真でお世話になっている山口さん兄弟。「楽しい手ごねパン作りの会」の根岸さんは平成 12 年に始まったコミセン湘南料理講習会の初代講師。そして「あぶ凧」の永野さん。湘南地区の子どもたちに貴重なコマ作り体験もさせている。コミセンは多くの方々のご協力で成り立っています。